

理科・環境教育助成 成果報告書

第3回 期間：2005年11月～2006年10月

氏名： 土門 みどり 所属： 横浜市立井土ヶ谷小学校

課題名： 自然を読み解く力を育てる表現と学び合い

1. 課題の主旨

本校では、豊かな表現が、豊かな学び合いの必要条件になると考えている。子どもが、自らの見方や考え方を様々な表現し、教師や友達がそれを認め合うことができたならば、そのクラス特有の「学級の知」を創ることができるであろう。その過程において、自然を読み解く力（読解力）を培うことができると考え、今回の課題を設定した。

2. 活動状況

- 2005年11月より計6回の授業研究会実施
- 大学教員との勉強会2回実施
- 文部科学省教科調査官の訪問指導
- 日本ネイチャーゲーム協会認定のリーダー資格取得及び計4回の研修会
- 文部科学省教育課程研究指定校発表会

3. 結果

研究内容の詳細は、添付資料、紀要（平成17年度版）及び紀要・指導案（平成18年度版）を参照。

平成18年11月16日に開催した文部科学省教育課程研究指定校において、全国から300人以上の参加者に対して、井土ヶ谷小学校の授業モデルを提示することができた。その際、文部科学省教科調査官や大学研究者が、読解力向上プログラムとの関連において、本校の指導方法の工夫を評価した。また、全国から来た参観者に対して、井土ヶ谷小学校が日産科学振興財団の助成を受けていることを宣伝する掲示を行った。

4. 今後の課題と発展

自然を読み解く力は、短期間に身につく能力ではないと考えられる。今後、いかにその力が身についているかを、子どもの表現から読み取っていきたい。また、学び合いを効果的に行う指導方法の工夫改善を図っていく。さらに、言葉と体験という中教審の答申で強調された考えについて研究の内容に盛り込んでいく。具体的な体験活動と抽象的な科学概念や科学的な言語の間をつなぐ、半具体・半抽象の図表、描画などについての記録・情報の収集・分析を行っていく。

5. 発表論文、投稿記事及び当財団へのご意見など

文部科学省教育課程指定校授業研究会において、日産財団パンフレット300部配布。本校研究における貴財団の助成についての宣伝活動を行った。